

[2026 年 8 月 6 日]

建設現場で使用した防災シートの水平リサイクルに関する実証事業を開始

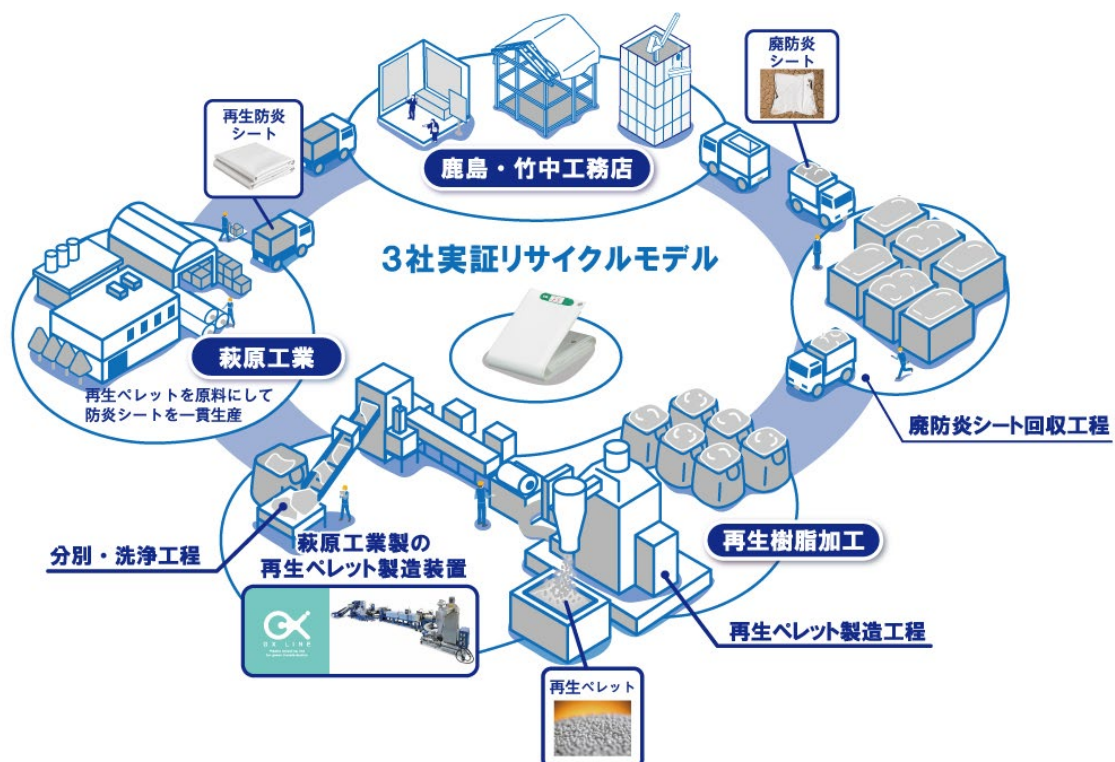
鹿島建設株式会社
株式会社竹中工務店
萩原工業株式会社

鹿島建設株式会社(代表取締役社長 桐生雅文、以下「鹿島」)、株式会社竹中工務店(取締役社長 丁野成人、以下「竹中工務店」)、萩原工業株式会社(代表取締役社長 浅野和志、以下「萩原工業」)の3社は、建設現場で使用する防災シートの水平リサイクルに関する実証事業を開始しました。

水平リサイクルとはマテリアルリサイクルの一種で、使用済み製品を回収、再原料化して、再び同じ種類の製品を製造するリサイクルのことです。これは、廃プラスチックなどを燃焼させて熱回収するサーマルリサイクルなどに比べ CO₂ 排出量が少ないため、環境負荷の小さい先進的なリサイクル手法です。

本事業では、鹿島および竹中工務店の建設現場で使用した防災シートを回収し、萩原工業がリサイクル処理を行い新たな防災シートとして再製品化します。再生防災シートは、鹿島および竹中工務店の建設現場で再使用され、3社が連携して「使用、回収、再製品化、再使用」という一連の流れを実証する計画です。

防災シートの水平リサイクルは建設業界において初めての試みであり、循環型社会の実現に向けた重要な一歩となるものと考えます。3社は本事業を通じて、建設現場における持続可能な資源循環の新しいモデルの構築を目指してまいります。



防災シートの水平リサイクルの仕組み

【背景】

2022 年 4 月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、プラスチック製シートなどについても水平リサイクルを含めたマテリアルリサイクルの推進が求められています。

建設現場で発生するプラスチック廃棄物の一つである使用済み防災シートは、含有する防災剤の問題から水平リサイクルが困難とされていましたが、萩原工業による技術開発によって、その実現に向けた技術的課題の解決に目処が立ちました。一方で、水平リサイクルを実用化するには、技術的に可能であるだけでなく、使用済みの防災シートを継続的に回収し、安定的にリサイクル工程に投入できる仕組みが必要です。

そこで 3 社は、防災シートのリサイクルに加え、リサイクルに関わるサプライチェーン全体としての実現可能性を検証する実証事業に取り組むこととしました。



萩原工業が所有するリサイクル設備

【実証事業の概要】

本事業は 3 社が、防災シートの使用から回収、再製品化、再使用までの一連の流れを通じて、資源循環スキームをサプライチェーン全体で実証するもので、その流れは次のとおりです。

鹿島および竹中工務店は、リサイクル可能な素材で製造された萩原工業の防災シートを購入し、実際の施工環境で使用します。使用後の防災シートは各建設現場で分別回収され、萩原工業のリサイクル施設へ搬入されます。萩原工業はブルーシートのリサイクルで培ってきた特殊洗浄や再生ペレット化などを進化させた自社技術により、防災シートを再製品化します。再製品化された防災シートを鹿島および竹中工務店が再び購入し、各建設現場で使用します。3 社は、この資源循環スキームを継続的に運用し、本スキームの実現可能性を検証します。

【今後の展開】

3 社は、本事業を通じて得られた知見を活用し、これからも建設業の課題に焦点をあてたマテリアルリサイクルを進め、循環型社会の実現に貢献してまいります。